



A 試合会場レポート

試合番号 124

開催日 2025/12/21

令和7年度 天皇杯・皇后杯 JVA全日本バレーボール選手権大会 男子

会場：京王アリーナTOKYO

観客数：	4,422	開始時間：	16:10	終了時間：	17:47	試合時間：	01:37	主審：服部 篤史	副審：林 淳一
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	----------	---------

ヴォレアス北海道



監督：クレン エド
コーチ：黒澤 一成

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

0	23	第1セット 【 00:28 】	25	3
	22	第2セット 【 00:30 】	25	
	23	第3セット 【 00:33 】	25	
		第4セット 【 】		
		第5セット 【 】		

ポイント 【】内はセット時間 ポイント
- ()内は交代選手 -

ウルフドッグス名古屋



監督：バルドヴィン ヴァレリオ
コーチ：深津 貴之

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

<監督コメント>

本日、私たちの特別な挑戦は幕を閉じ、今大会で唯一の敗戦となりましたが、後悔はありません。最後の1点まで全力で戦い抜きました。すべてのセットが拮抗し、私たちは最後まで決して諦めませんでした。結果として、今日は特に攻撃面で相手が上回っており、非常に高いレベルのオフェンスを展開していました。この試合からさらに多くを得るためには、相手の攻撃をより効果的に抑え、そして大会を通して何度も見せてきたようなサーブのプレッシャーを、より安定してかけ続ける必要があります。

天皇杯のタイトルはウルフドッグス名古屋にふさわしいものです。素晴らしい大会を戦い抜いた彼らに、心からおめでとうと言いたいです。天皇杯全体を振り返ると、私たちはチームとして大きく成長し、本当の意味でのメンタルタフネスを示し、そして確かな自信を築くことができました。準優勝という結果は、SVリーグに戻る私たちにとって大きなエネルギーとモチベーションになります。これからも成長を続けていきます。

<監督コメント>

世界中のバレーボールファンの皆さま、本日は令和7年度天皇杯・皇后杯JVA全日本バレーボール選手権大会の決勝戦をご覧頂き、誠にありがとうございました。我々ウルフドッグス名古屋は日々「DARE TO CHALLENGE」のコンセプトに沿って、小さなステップを踏み続け、決して終わる事のない努力を重ねる事で、それを実現してきました。私は選手・スタッフ・事務局・スポンサー企業、そしてウルドファミリーのファンの皆さまが日本一と呼ばれる事を本当に嬉しく、また共に闘っている事に誇りに思います。

応援して下さいた皆さまにも誇りを感じて頂きたいと思います。ここ京王アリーナに足を運んでくださった方々、配信を通じて声援を送ってくださった皆さまのおかげで全力を尽くす事が出来ました。心から感謝申し上げます。

世界クラブ選手権を闘っているチームも戻り、さらに注目される大同生命SVリーグが来週から再開します。我々ウルフドッグス名古屋は豊田合成記念体育館「エントリオ」での年末年始の年越しホームゲームです。お会いできる事を楽しみにしております。メリークリスマス！FUSION & UNITED

23	三好	タンメアル	第1セット	フベル	水町	25
	()	()		()	()	
	山岸	チャン		宮浦	深津	
	()	()		()	()	
22	染野	タンメマー	第2セット	ブゲラ	佐藤	25
	()	()		()	()	
	()	()		()	()	
23	三好	タンメアル	第3セット	フベル	水町	25
	()	()		()	()	
	山岸	チャン		宮浦	深津	
	()	()		()	()	
23	染野	タンメマー	第4セット	ブゲラ	佐藤	25
	()	()		()	()	
	()	()		()	()	
23	三好	タンメアル	第5セット	フベル	水町	25
	()	()		()	()	
	山岸	チャン		宮浦	深津	
	()	()		()	()	
23	染野	タンメマー	第5セット	ブゲラ	佐藤	25
	()	()		()	()	
	()	()		()	()	

<要約レポート>

4年ぶりの頂点を目指すウルフドッグス名古屋と、初優勝を目指すヴォレアス北海道の天皇杯決勝戦。

第1セット、両チームの緊張感が伝わるスタートから、ヴォレアスは山岸、WD名古屋は深津の両セッターがサーブでブレイクを取る。その中、WD名古屋は水町のサービスエースや好レシーブから、フベル、宮浦のスパイクでリードし、ブゲラのスパイクでリードを広げる。ヴォレアスは三好の連続サービスエース、染野のスパイクで差を縮め、タンメマーのサービスエースで同点に追いつく。終盤、WD名古屋は宮浦とブゲラのサーブで先にセットポイントを取ると、染野の連続スパイクで追いつくがヴォレアスを振り切り、WD名古屋がセットを先取する。

第2セット、ヴォレアスは三好のスパイクとタンメアルのサービスエースで先行する。中盤、WD名古屋は水町、宮浦のスパイクで追いつき、佐藤のサービスエースで逆転すると、フベルのスパイクでリードを広げる。ヴォレアスも、チャンとタンメアルのサーブ、スパイクで追撃するが、WD名古屋・宮浦の強いスパイクに対応できずセットの連取を許す。

第3セット、ヴォレアスはチャン、WD名古屋は宮浦の、両オポジットがサーブ、スパイクで魅せる。さらに、ヴォレアスはタンメマー、WD名古屋は佐藤が要所でブロックをあげて点差が付かない。中盤、WD名古屋は深津のサーブを起点に水町のスパイク、フベルのブロックでリードする。すぐにヴォレアスも点差を縮め、その後は互いに好レシーブを上げあい、点差のつかないまま終盤を迎える。両スパイカー陣の強打を拾いあうラリーが続く中、最後はフベルのブロックで、WD名古屋が勝利し天皇杯を手にした。

作成者：高澤 佳江

※本票の著作権は、公益財団法人日本バレーボール協会に帰属します。